

# 新任薬剤師研修会を終えて

西埼玉中央病院 薬剤部 大熊 玲子

出身大学：明治薬科大学（平成27年）

興味のある分野：がん領域

私は、平成27年4月より埼玉県所沢市にありま  
す西埼玉中央病院に採用になりました。入職から  
3か月が経ち、調剤室の業務に加え少しずつ病棟  
業務も始まり、充実した日々を送っております。  
6月に参加させていただいた新任薬剤師研修会  
では、薬剤師として安全な医療を提供していく上  
での意識や方法を学ぶことが出来た貴重な機会  
となりました。

研修の前半は「医療安全とは～安全を守るため  
に私たちが考えるべきこと～」という講演があ  
り、「医療安全とは」、「なぜ人は間違えるのか」、  
「医療安全で大切なもの」という内容でした。公  
演の中で認識が新たになったこととして、医療  
における“安全”を“受け入れることの出来ない  
リスクがないこと”と考えるということでした。未  
熟ながら私も一薬剤師として、医療者とは絶対に  
間違えてはならない立場であるという考えを持  
っております。しかし、ヒューマンエラーを完全  
になくすることは不可能であるため、“リスク”を  
“受け入れることが出来るレベルに留める”とい  
う異なる見方が出来ることを知り、新たな考え  
方を持つことが出来ました。リスクを最小限にす  
るために自分の果たすべき注意義務を怠らない  
こと、ルールを遵守することを徹底していきたい  
と強く思い、改めて身を引き締め直しました。

後半はグループワークとして「Team STEPPS」  
という医療安全の推進に向けたチームトレーニ  
ングの戦略と方法についての実践的な研修でし  
た。ワンショット投与しない薬剤をワンショット  
するように研修医から指示を出された1年目の  
薬剤師がどう対応するかというロールプレイを  
行いました。私は1回目のロールプレイでは薬  
剤師役と医

師役のロールプレイを評価する立場になりま  
した。薬剤師役は添付文書を確認して、ワン  
ショットすると危険であるということ、正しい  
使い方ではないということはしっかり説明する  
ことが出来ていました。しかし、研修医役は  
指導医から指示されたままに薬剤師にオー  
ダーしたという背景があり、その説明だけ  
では状況があまり呑み込めず府に落ちない  
といった感じでロールプレイが終わりました。  
客観的に見てわかったこととして、自分が  
伝えなければならない点ばかりに気が集中  
すぎて、それ以外の問題点や配慮の仕方  
に目を向けることが出来ていなかったと感  
じました。これは今までの自分自身の仕事  
を振り返っても同じであったと気づかせ  
られ、反省した点でもありました。一つの  
問題に対して一つの側面から答えを考  
えるのではなく、多方面から考えしっか  
り全体像を把握することが大切であるとい  
うことを学びました。また、状況・背景・  
評価・提案の順に話をする円滑なコミュ  
ニケーションを進めることができる“SBAR”  
という手法も学び、研修以来少しずつ意  
識するようになりました。これから実践  
で役立てていきたいと思っております。

この研修を終えて、医療安全に対して難  
しいものとして消極的に考えていた意識  
が少し変わりました。また、苦手として  
いるコミュニケーションも新たな手法を  
学ぶことができ、自信に繋がるスキル  
を得ることが出来たと感じておりま  
す。日常の業務においても患者さんや  
先輩方から学ぶことは多くあり、日  
々勉強であることを痛感する毎日  
であります。今回の研修も日常の  
小さな経験も無駄にせず吸収し、  
患者さんの安全で最適な医療の  
ために努力していく所存です。